Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第17号
2024年（令和六年） 8月2日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（7月25日～31日）の国際石油市場は、中東の緊張緩和、中国の景気先行き懸念拡大などから、軟化したが、31日のハマスのハニヤ最高指導者の殺害発表で、大きく反発した。

NYのWTI原油先物市場は、25日、続伸の78.28ドルで始まったが、その後3営業日続落、30日には74.73ドルまで下落したものの、31日には大幅反発の77.91ドルで終わった。

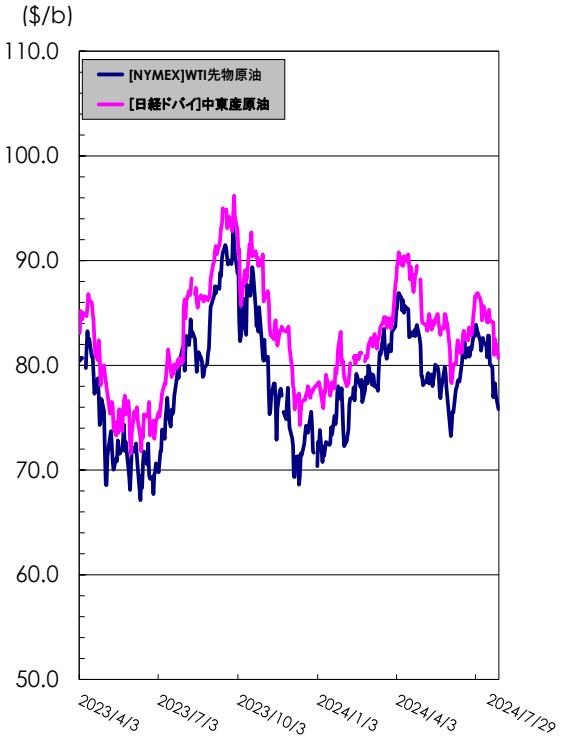
また、中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）も、前週（7月18日～24日）81.00～85.30ドルの範囲で推移したが、当週は、7月25日82.50ドル、26日82.10ドル、29日80.70ドル、30日78.90ドル、31日79.70ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（7月18日～24日）155.86～157.54円の範囲で推移したが、当週は、7月25日153.36円、26日154.13円、29日153.76円、30日154.08円、31日152.44円となった。

財務省が7月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月上旬の原油輸入平均CIF価格87,919円で前旬比2,005円高、ドル建て87.99ドルで前旬比0.98ドル高、為替レートは1ドル/158.85円。

そのような中で、7月29日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.5円安、軽油も同0.4円安、灯油も同4円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.9円となった。8月1日～7日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は27.1円（補助金がない場合の次週予想価格201.9円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は16.9円）となった。

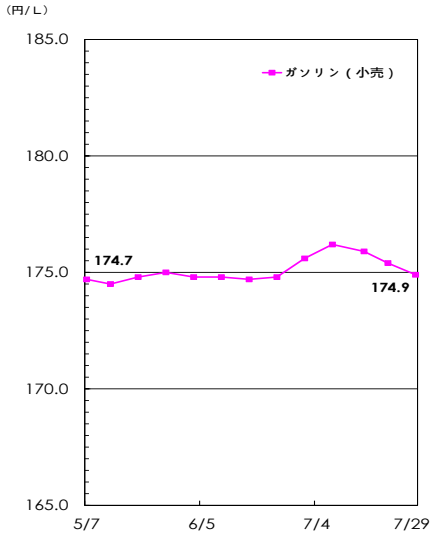
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	7/21 ～ 7/27	2,202	▼ -89	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	63.6	▼ -2.6	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	7/27	10,621	▲ 874	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	7/29	80.70	▼ -3.40	▲ 0.4
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	7/29	75.81	▼ -3.97	▼ -6.0
	原油CIF単価	（$/bbl）	7月上旬	87.99	▲ 0.98	▲ 7.47
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	87,919	▲ 2,005	▲ 15,824
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	158.85	▼ -1.88	▼ -16.50
	外国為替TTSレート	（¥/$）	7/29	154.76	▲ 3.78	▼ -12.79



（単位：千kl、円/リットル）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/21 ～ 7/27	769	▲ 58	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	805	▲ 19	▼ –
	輸出		〃	49	▲ 29	▼ –
	在庫		7/27	1,441	▼ -85	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/23 ～ 7/29	81.0	▼ -0.4	▲ 2.0
		（TOCOM/中部）	7/29	79.5	▼ -2.0	▼ -4.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/29	174.9	▼ -0.5	▼ -1.8

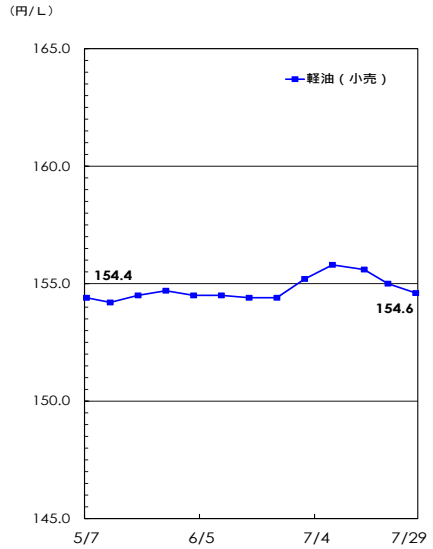
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

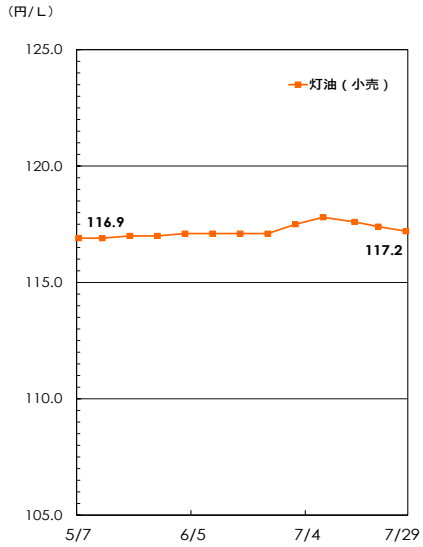
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/21 ～ 7/27	521	▼ -75	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	569	▲ 67	▼ –
	輸出		〃	67	▲ 16	▼ –
	在庫		7/27	1,257	▼ -114	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/23 ～ 7/29	81.5	▼ -1.9	▼ -4.9
		（TOCOM/中部）	7/29	-	-	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/29	154.6	▼ -0.4	▼ -1.7

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/21 ～ 7/27	67	▼ -46	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	33	▼ -41	▼ –
	輸出		〃	21	▲ 10	▲ –
	在庫		7/27	1,705	▲ 13	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/23 ～ 7/29	81.5	▼ -0.4	▲ 3.5
		（TOCOM/中部）	7/29	80.0	➡ 0.0	▼ -4.8
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/29	117.2	▼ -0.2	▲ 0.8



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（7/18～7/24）のNYMEX・WTI先物市場は76.96～82.82ドルの範囲で推移した。

当週、7月25日は、米国第2四半期のGDP成長率が前期比加速、市場予想を上回り、続伸した。ただ依然、中国景気の減速感、パレスチナ停戦期待は根強く、上値を抑えた。8月物終値は同0.69ドル高の78.28ドル。

週末26日は、訪米中のイスラエルのネタニヤフ首相が米正副大統領と会談、緊張緩和期待の高まりがあり、加えて、前日の中国の利下げが、利下げが必要とされる経済停滞を招いているとの見方から、反落した。9月物終値は前日比1.12ドル安の77.16ドル。

週明け29日は、27日イスラエルが占領するゴラン高原にロケット砲が着弾、子供を含む12人が死傷、これに対し報復として、レバノンのヒズボラを攻撃したが、双方ともこれ以上の紛争拡大を望まないとしたことから、緊張緩和感は継続、外為市場では対ユーロでドル高が進行、原油先物の割高感もあって、続落した。8月物終値は同1.35ドル安の75.81ドル。

30日は、中国の景気後退感が再燃、加えて、ドル高が継続、3営業日続落した。9月物終値は、同1.08ドル安の74.73ドル。

31日は、ハマスは、最高指導者ハニヤ氏が、イラン大統領就任式に出席後滞在中の首都テヘランで殺害されたと発表、イスラエルによるピンポイント攻撃と見られることから、にわかに緊張が激化、4営業日ぶり大幅に反発した。また、米国の先週末の石油在庫が、原油ガソリンとも予想を上まわる取り崩しで、米国需要の底堅さを示したことも、値上がり要因。8月物終値は、同3.18ドル高の77.91ドル。

2　海外/米国石油市場

7月31日発表の26日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比340万バレル減と市場予想（同110万バレル減）を上回る取り崩し、ガソリン在庫も同370万バレル減と市場予想（同100万バレル減）を上回る取り崩しであったことから、需給の引き締まり感が高まり、値上がり要因となった。

EIAによると、7月29日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.3セント高の1ガロン3.484ドル（142.3円/㍑）と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.1セント安の1ガロン3.768ドル（153.9円/㍑）と3週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、7月26日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比5基増の482基と3週ぶりの増加となった。

3　国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年7月21日～7月27日に休止したトッパー能力は68.7万バレル/日で、前週に対して6.8万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は220.2万klと、前週に比べ8.9万kl減少。前年に対しては75.6万klの減少。トッパー稼働率は63.6%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては16.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/8.2%増、ジェット/6.5%増、灯油/40.6%減、軽油/12.6%減、A重油/0.3%減、C重油/44.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比横ばい）。軽油の輸出は6.7万kl（前週比1.6万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週に比べてガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では全ての油種で減少した。ガソリンの出荷は80.5万kl（対前週2.4%増）と2週連続で増加した。ジェット6.5万kl（対前週18.8%減）、灯油3.3万kl（対前週55.3%減）、軽油56.9万kl（対前週13.3%増）、A重油12.3万kl（対前週26.3%減）、C重油11.2万kl（対前週1.8%増）。

（単位：千KL）

	今週 (7/21 ~ 7/27)	前週 (7/14 ~ 7/20)	前週比
ガソリン	805	786	▲ 19　(2%)
ジェット燃料	65	80	▼ -15　(-19%)
灯油	33	74	▼ -41　(-55%)
軽油	569	502	▲ 67　(13%)
A重油	123	166	▼ -43　(-26%)
C重油	112	110	▲ 2　(2%)
合　計	1,707	1,718	▼ -11　(-1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

4　国内/製品在庫量

7月27日時点の在庫は、ジェット、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは144.1万kl、前週差8.5万kl減。前年に対しては4.4万kl多い。

灯油は170.5万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては15.9万kl少ない。

軽油は125.7万kl、前週差11.4万kl減。前年に対しては1.8万kl多い。

A重油は68.2万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては1.0万kl多い。

C重油は167.0万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては18.3万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (7/27)	前週 (7/20)	前週比
ガソリン	1,441	1,526	▼ -85　(-6%)
ジェット燃料	728	688	▲ 40　(6%)
灯油	1,705	1,692	▲ 13　(1%)
軽油	1,257	1,371	▼ -114　(-8%)
A重油	682	673	▲ 9　(1%)
C重油	1,670	1,719	▼ -49　(-3%)
合　計	7,483	7,669	▼ -186　(-2.4%)

5　国内/元売会社製品卸価格

7月23日～29日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、中東原油調整金の値下がり分を含め、元売会社の卸価格建値は値下げしたものと見られる。補助金も減額されたが、小幅であったことから、8/1～8/7の実質卸価格は値下がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

7月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の174.9円、軽油も同0.4円安の154.6円、灯油も18㍑ベースで同4円安の2,110円（1㍑ベースでも同0.2円安の117.2円）。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが5県、横ばいは5県、値下がりは37都道府県だった。全国最安値は愛知県の167.7円、その次は岩手県の168.4円であった。他方、最高値は山形県の183.2円。最も値上がりしたのは熊本県（同0.4円高）、最も値下がりしたのは北海道と宮城県（各同1.7円安）だった。

次回調査時（8/5）のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(7/29)	前週　(7/22)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	174.9	175.4	▼ -0.5	23/9/4	186.5
	灯油	117.2	117.4	▼ -0.2	08/8/11	132.1
	軽油	154.6	155.0	▼ -0.4	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第18号）の公表は、8/9（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。